

資料4

農業等人間活動との両立について

関東地方環境事務所

課題

- 個体数の増加
- 新たな集団ねぐらの形成 等



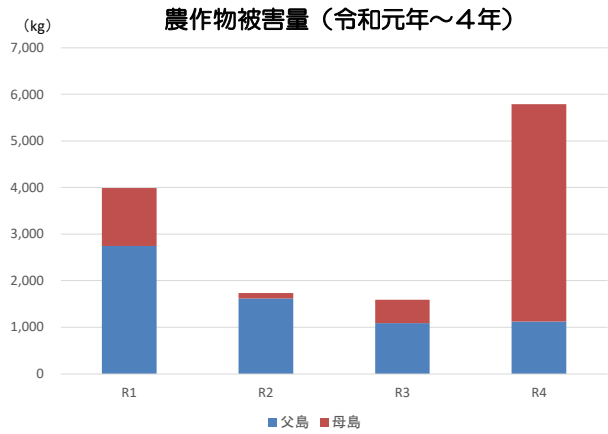
人間活動との軋轢が顕在化

- 農業被害の増加
- 生活環境への影響
- 傷病個体（事故）の増加 等

➤ 軋轢（被害）や事故の防止・軽減に向けた取組についてご意見をいただきたい。

2

農作物被害状況

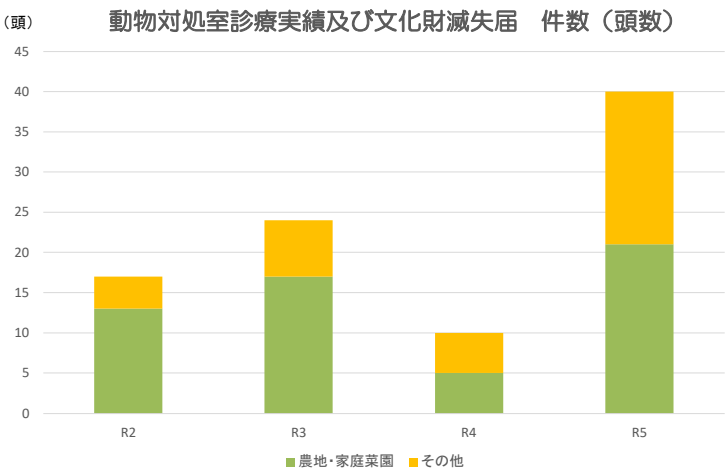


被害作物はレモン、パッションフルーツ、カンキツ、コーヒー、バナナ、マンゴー、レイシ等

引用：R2～R5年度オガサワラオコウモリ保護増殖事業検討会資料

3

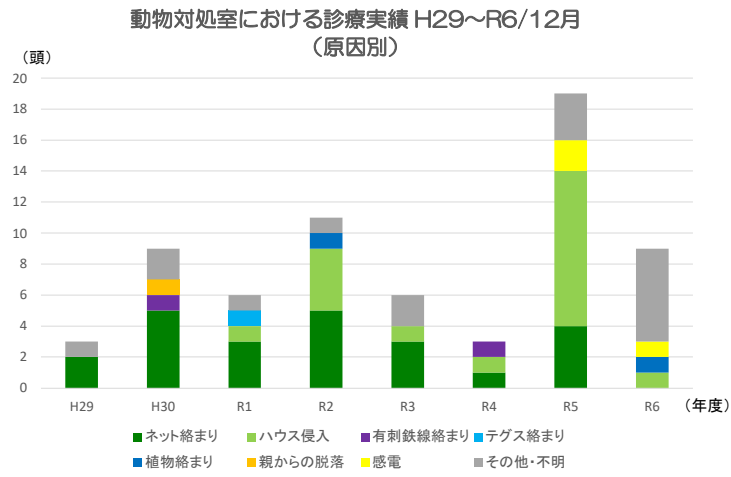
傷病個体の発生件数



引用：R2～R6年度オガサワラオコウモリ保護増殖事業検討会資料

4

傷病個体の発生原因



引用: R6年度オガサワラオコウモリ保護増殖事業検討会 資料3

5

農地での救護事例

ハウス侵入 (2024/9/23) 少しのすき間からでも侵入する



天面の隙間

引用: 緊急捕獲通知 (東京都)

6

安全な被害防除施設については一定の技術が確立

(参考)母島の施設(2024年10月)



7

集落での救護事例 1

ネズミ捕獲用粘着剤付着(2024/6/4)



保護直前 両翼がくっついて離れない

衰弱(2024/6/8)



採食に来て衝突したと考えられる。

引用:緊急捕獲通知(東京都)

8

集落での救護事例2

幼獣が親から脱落(2024/7/17)



採食に来た親から脱落したと考えられる。
写真はNPOによって再設置されたネット。

建物迷い込み(2024/8/4)



採食に来て誤って迷い込んだと考えられる。

引用:緊急捕獲通知(東京都)

9

検討課題

◎農地等へ来ないようにできないか？

- ・農業用施設（ハウス）での対策は進展中であるが、防除対策が未実施の農地もまだ多く残されている。
 - ・植栽地が餌場として機能するまでには時間を要する。
- 巡視や追い払い等の対策も行われているが、そもそも農地や家庭菜園等への飛来を防止する方法（忌避技術等）はないか？

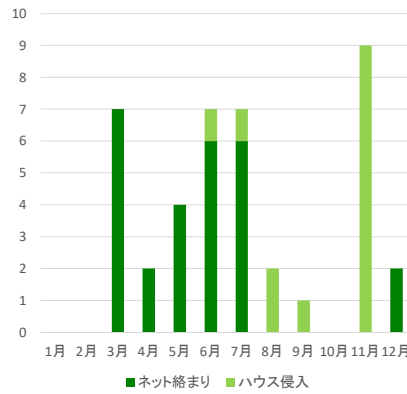
◎効果的な被害防除、事故予防に向けて必要な情報は？

- ・母島での行動等の情報は、父島と比較してデータが少ない。
特に母島での冬季のGPS調査は2個体のみ
- ※ 関連するこれまでの調査結果の概要は次ページ以降

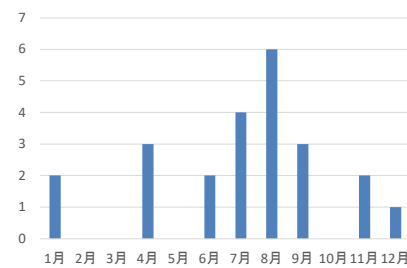
10

いつ事故に遭うのか? ～傷病個体の発生時期～

動物対処室における診療実績
(月別：農業関係)



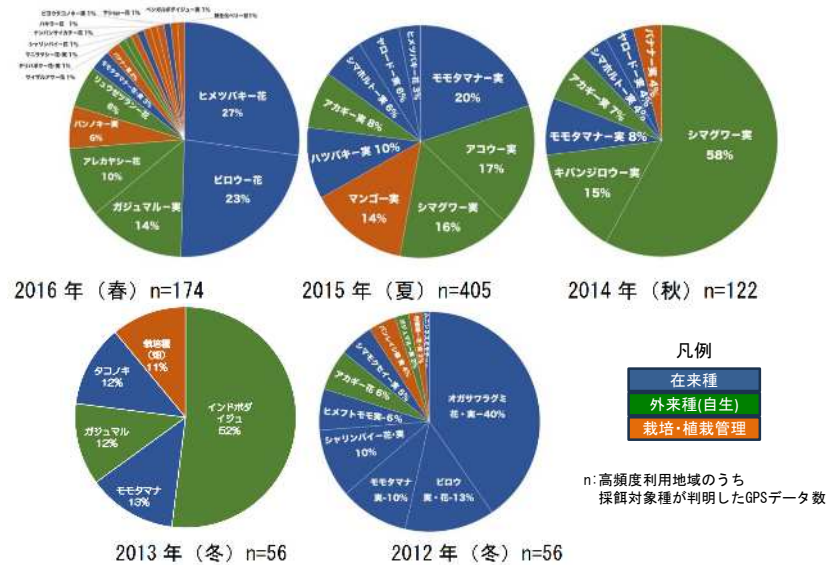
動物対処室における診療実績
(月別：その他)



引用：R6年度オガサワラオオコウモリ保護増殖事業検討会 資料3

11

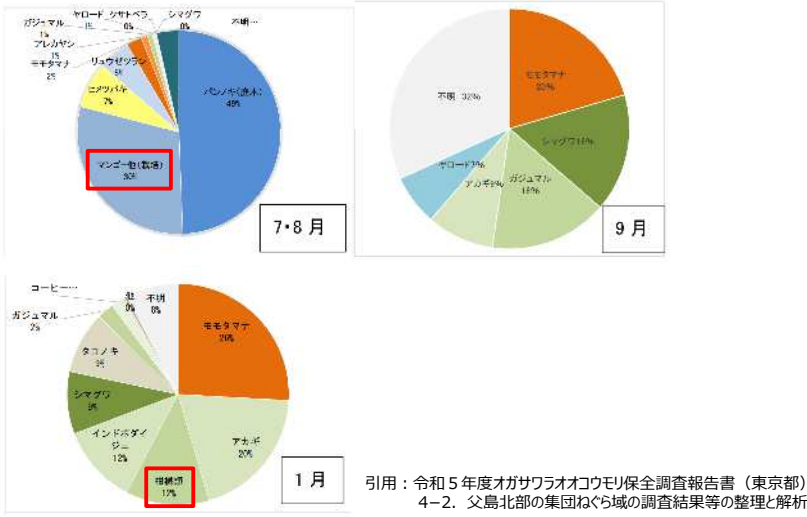
何を食べているのか? ～利用樹種（父島）～



引用：令和3年度オガサワラオオコウモリ保全調査報告書(東京都)
3. オガサワラオオコウモリ保全のための植生回復方法の検討

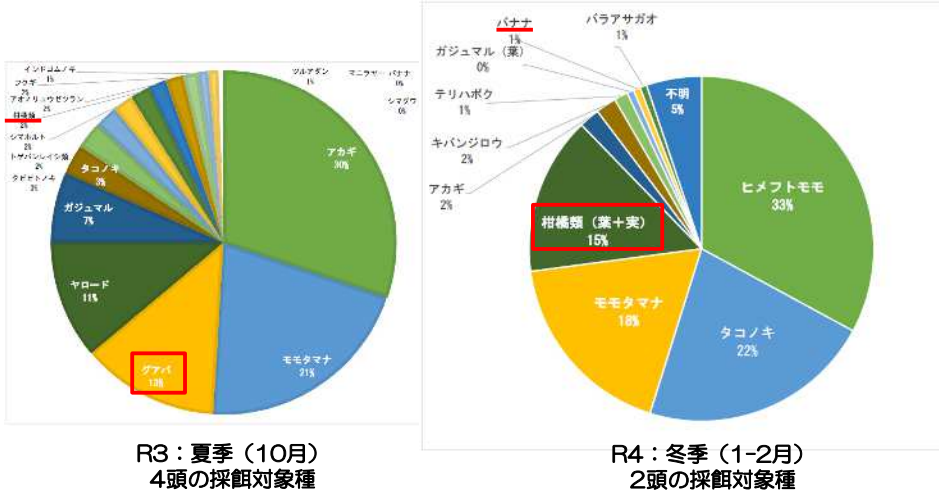
12

～採餌対象（父島北部ねぐら利用個体）～



13

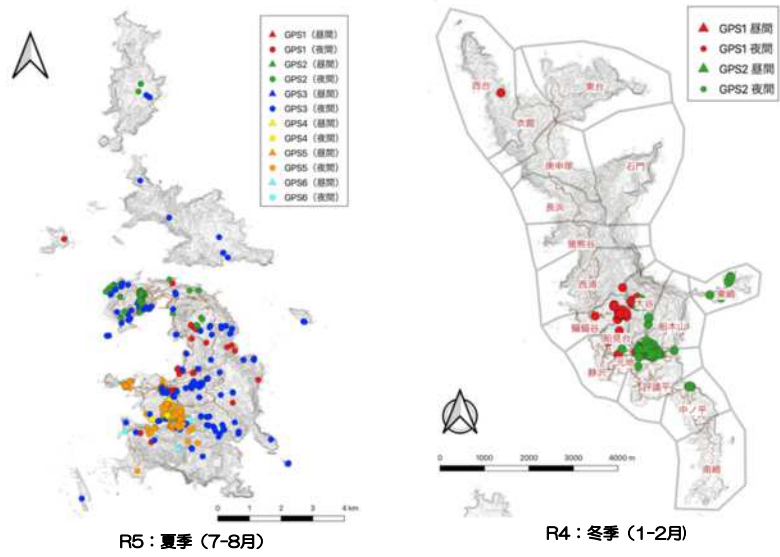
～採餌対象（母島）～



引用：R1～R4年度 国内希少野生動物植物種（オガサワラオコウモリ）保護増殖事業調査報告書（環境省）

14

どこで食べているのか？ ～行動圏～



引用: (父島) 令和5年度オガサワラオコウモリ保全調査報告書 (東京都)
(母島) R4年度 国内希少野生動植物種(オガサワラオコウモリ)保護増殖事業調査報告書(環境省)